

NURSE LETTER

NO.2

今回、MEさんに私たちに身近なME機器使用についてメッセージをお願いしたところ、とても重要なポイントを教えていただいたので8月号は2ページに渡りお伝えします。

ME 機器講座

ME 青木さんより看護師の皆さんへのメッセージです

～シリンジポンプを上手く使いこなすためのテクニック～

その1； 始める前に“早送り”をするべし！

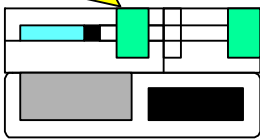
シリンジポンプは“ギア”を使って薬液を送り出しています。“ギア”というより歯車といったほうがお馴染みでしょうか？この歯車はきちんと噛み合わせておかないと始めの10分くらいは正確に動いてくれません。ではどうやって歯車を噛み合わせるかという“早送り”を使います。“早送り”をすることで歯車がきちんと噛み合ってくれるのです。薬液チューブを患者側ルートにつなぐ前に“早送り”をしておくことでシリンジポンプは正確に動いてくれるでしょう。



その2； “残量警報”を知るべし！！

シリンジ薬液が残り少なくなると警報が鳴りますが、どれくらいの時に鳴るのかご存知でしょうか？答えは、「シリンジの大きさによって違う」です。10mLシリンジの場合は、なんと残り 0.1mLのとき警報が鳴るのです。これを知っているだけでも後の用意が変わってくると思いませんか？

残量警報はシリンジによって変わる！！



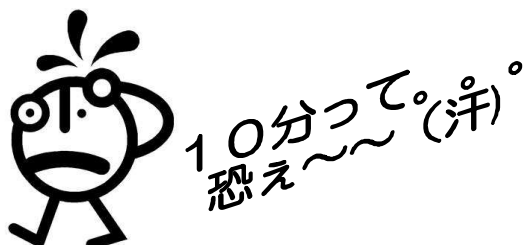
警報が鳴る残量

20～50m l	:	1 m l
10m l	:	0.1m l



その3； “残量警報”が鳴ったら手早く交換するべし！！！！

先ほどの残量警報で警報が鳴ったとき皆さんはすぐに新しい薬剤に変更していますか？そのまま放置した場合は再度警報が鳴ると思います。このときの警報は“閉塞圧警報”です。この警報の意味を考えてみてください。閉塞圧警報が鳴るといことは、実は薬剤は無くなっている状態なのです。薬剤がなくなった状態で10ソク以下（10mL/h以下）の場合は、なんと10分程度は薬剤が入っていない状態になっています。慎重に薬剤を投与しているケースでは、この10分、、こわくないですか？“残量警報”が鳴った時点で「もったいない精神」は置いていて確実な交換を心がけましょう。おっと、そのときは“早送り”もお忘れないように (^ ^)ゝ



わからないことはどうぞMEまで。

